岩手県森林病害虫被害対策推進協議会議事録

- 1 開催日時 令和6年1月26日(金)13:30~15:00
- 2 開催場所 盛岡市内丸 16番1号 岩手県水産会館 大会議室
- 3 出席者 別紙出席者名簿のとおり
- 4 会議次第 別紙次第のとおり
- 5 議事録 下記のとおり

6 議事

(1) 松くい虫被害対策について

ア 報告

- ① 岩手県の松くい虫被害の現状と対策について(資料1により説明) 《質疑等特になし》
- ② 松くい虫被害地域の指定に係る検討状況について(資料2により説明) 《質疑等特になし》
- ③ ドローンによる松くい虫被害木航空調査結果について(資料3により説明) 《主な質疑の要旨は次のとおり》

【中村構成員(森林総合研究所東北支所)】

今回のマルチスペクトルカメラを搭載したドローン調査により、一戸町の先端地での被害木の位置が明確になったと思います。一方、マルチスペクトルカメラを搭載したドローンによる調査は、多くの調査費用を必要とします。このため、マルチスペクトルカメラを搭載していない、通常の写真撮影ができるドローンも活用して、被害木の探査を進めるべきとも思いますがいかがでしょうか。

【事務局】

マルチスペクトルカメラによるドローン調査の対象地は、8月に防災ヘリで一 戸町の航空調査を行い、被害木が確認された地点において、確実に全量駆除をす ベきエリアを絞り込んで選定したところです。

今回のドローン調査では、調査区域全体を視覚的に把握し、現地調査に入る前に被害木の位置を絞り込むことができるなど、ドローン調査のメリットが確認されました。

また、県では令和3年から二戸農林振興センター林務室に松くい虫被害木探査 用のドローンを配備し、職員によるドローンを活用した被害木の調査を推進して います。今後も、これらドローンを活用した被害木の調査を推進し、早期発見を 徹底します。

イ 協議 令和6年度松くい虫被害対策

- ① 高度公益機能森林等の区域の変更(案) について(資料4により説明) 《質疑等特になし。原案通り審議会に諮ることを確認。》
- ② 令和6年度特別防除等計画(案)について(資料5により説明) 《質疑等特になし》

- ③ 令和6年度松くい虫被害対策実施方針(案)について(資料6により説明) 《質疑等特になし》
- ④ 松くい虫被害防除監視帯の変更(案)について(資料7により説明) 《質疑等特になし》

(2) ナラ枯れ被害対策について

- ア 報告 岩手県のナラ枯れ被害の現状と対策(資料8により説明) 《質疑等特になし》
- イ 協議 令和6年度ナラ枯れ被害対策実施方針(案) について (資料9により説明) 《質疑等特になし》

(3) その他

【中村構成員 (森林総合研究所東北支所)】

今回の松くい虫及びナラ枯れ被害に関する報告について、まとめて意見を述べさせていただきたいと思います。

ア 松くい虫被害について

令和5年9月末の被害について、岩手県は前年よりも減少していると報告があったところですが、全国的には夏の猛暑により被害が増えている地域も多くあります。本来であれば岩手県でも猛暑の影響により、特に盛岡市周辺とか、東側では遠野市において被害の拡大が十分にあり得たところですが、被害が増えていないということは、これまでの防除の取組が成果を挙げているものと思います。

しかし、県内で感染源がなくなったわけではないので、被害発生が落ち着いている今こそ、拡大が危惧される地域での樹種転換を進める等の被害拡大防止のための対策を進める必要があります。

今後、県南のような被害まん延地域では夏の猛暑によって被害量が増えることもありえますが、これについては今まで通りの防除方針を継続して、被害量の増減で一喜一憂せず、最終的に県内全体として低い被害量で推移することを目指すことが大事です。

また、沿岸地域では、松くい虫被害を受けていない地域も多く、本年度から陸前 高田市の高田松原で予防散布を始めたのは非常に有効と思います。個別の被害量を 見ると、大船渡市では被害が増えているようですが、特に大船渡湾西側の急峻な山 中での駆除では労力に見合った成果を上げにくいかと思います。防除対策としては これまでどおり、内陸部や釜石市への被害拡大防止を優先的に行うのが望ましいで す。

一戸町の松くい虫被害は岩手県での被害対策の焦点です。林道も通っていないような奥地での松くい虫被害木の調査は困難ですが、今回ドローンを活用して調査を行ったように、検出の精度を上げて早期発見・早期駆除を目指していただきたいと思います。一戸町の松くい虫被害は、昨年から横ばいで推移しているところですが、猛暑の影響により、被害が拡大して、被害地域となってしまうことも考えられるため、しっかりと防除対策に取り組み根絶を目指していただきたいと思います。

なお、近年の猛暑に伴い、マツノマダラカミキリの羽化脱出、つまり成虫発生時期が早まっていることも考えられます。マツノマダラカミキリの羽化脱出時期が早まると、駆除期限や予防散布時期などの県の防除方針に大きな影響を及ぼすことから、現在の羽化脱出日について林業技術センターと調査を行い、必要に応じて適切

な防除時期を検討していただきたいと思います。

イ ナラ枯れ被害について

ナラ枯れ被害に関して、岩手県は前年よりも減少していると報告があり、これま での防除対策の効果があったものと考えています。

しかし、ナラ枯れは一度感染が始まってしまうと、周辺の大径木は全て枯れてしまうため、防除は被害が拡大していない先端地域で徹底駆除が基本になります。また今回の報告の中で、被害地において被害を受けていない大径木を伐採し有効活用するとありましたが、未被害地こそナラの大径木を、材としての価値がある今のうちに、積極的に伐採して利用を進めることが重要です。

最後に、お聞き忘れていたこととして、ナラ枯れ被害の内陸方面への拡大がどの 程度進行しているのか、特に沿岸部の市町村を中心に教えていただきたいと思いま す。

【事務局】

資料 54 ページをご参照ください。県内において、ナラ枯れ被害が昨年から拡大した地点を濃い赤丸で示しており、内陸部では北上市、金ケ崎町、一関町で被害地域の拡大が報告されています。

また、沿岸部の市町村でも、釜石市、大槌町、野田村及び久慈市で海岸沿いから 内陸側への被害拡大が報告されています。これら市町村では、被害拡大防止のため、 内陸側に拡大した被害木について優先的に伐倒駆除することとしています。

《議事終了》

岩手県森林病害虫被害対策推進協議会出席者名簿

令和6年1月26日(金) 岩手県水産会館

所 属	職名	氏 名	備考
盛岡森林管理署	署長	山口 孝	
環境省東北地方環境事務所	国立公園課長	田畑 慎之介	
国立研究開発法人 森林研究・整備機構	産学官民連携推進調	中村 克典	
森林総合研究所東北支所	整監		
北上川上流流域森林・林業活性化セン	構成員 (盛岡市長)	内舘 茂	(代理) 盛岡市農林部林政課
ター			林政課長 富樫 正幸
一関地方農林業振興協議会	会長 (一関市長)	佐藤 善仁	(代理)一関市農林部林政推進課
			林政推進課長 小山 敏典
気仙地方林業振興協議会	会長 (陸前高田市長)	佐々木 拓	(代理)陸前高田市農林課
			主任 志田 一朗
岩手県森林組合連合会	代表理事専務	澤口 良喜	(代理)業務部森林整備グルー
			プ長 佐々木 利夫
岩手県木材産業協同組合	専務理事	伊藤 節夫	
ノースジャパン素材流通協同組合	参与兼経営企画管理	一条 克也	
	部長		
岩手県チップ協同組合	理事長	瀬川 清一郎	
一般社団法人岩手県木炭協会	常務理事	和嶋憲男	
岩手県農業協同組合中央会	参事	羽柴 郁夫	
岩手県内水面漁業協同組合連合会	専務理事	石田 享一	
岩手県養蜂組合	組合長理事	土屋 勲	(代理)岩手県養蜂組合
			副組合長理事 畠山 達也
日本野鳥の会 もりおか	代表	佐賀 耕太郎	
岩手県環境生活部	自然保護課総括課長	酒井 淳	
岩手県農林水産部	林務担当技監	工藤 亘	会長
			五尺

事務局等

所 属	職	氏 名
	総括課長	砂子田博
	整備課長	小川 健雄
岩手県農林水産部森林整備課 (事務局)	主任主査	中嶋 康
	主査	高橋 信貴
	技師	皆川 拓
岩手県林業技術センター研究部	上席専門研究員	小岩 俊行

岩手県森林病害虫被害対策推進協議会

日時:令和6年1月26日(金) 13:30~15:30

場所:岩手県水産会館 盛岡市内丸16番1号

次 第

1	開	会	
2	挨	拶	
3	議	事	
	(1)	松くい虫被害対策について	
	ア	報告	
	(1) 岩手県の松くい虫被害の現状と対策について	【資料1】
	2	松くい虫被害地域の指定に係る検討状況について	【資料2】
	3	トローンによる松くい虫被害木航空調査結果について	【資料3】
	1	協議	
	(1) 高度公益機能森林等の区域の変更(案) について	【資料4】
	(2	う 令和6年度特別防除等計画(案)について	【資料5】
	(3	う 令和6年度松くい虫被害対策実施方針(案)について	【資料6】
	$\overline{4}$) 松くい虫被害防除監視帯の変更(案)について	【資料7】
	(2)	ナラ枯れ被害対策について	
	ア	報告	
		岩手県のナラ枯れ被害の現状と対策について	【資料8】
	イ	協議	
		令和6年度ナラ枯れ被害対策実施方針(案) について	【資料9】
	(3)	その他	

4 閉 会